

平成 20 年度第 4 回四万十町地域公共交通会議 議事録

日 時：平成 21 年 3 月 24 日（火） 13：30～15：50

場 所：四万十町役場（3F）委員会室

出席者：別紙のとおり

1 開会あいさつ

2 議 題

(1) 四万十町生活交通再編基本計画（案）について

(2) 四万十町生活交通再編行動計画の策定について

企画課が、「資料 2」、「資料 3」及び「資料 4」により説明した。

【意見】

- ・ 基本方針（冊子）は、ページの統一が必要。
- ・ 基本方針第 1 章 1 ページで生活交通の定義を説明しているが、それ以後の章で、生活交通についての記載があまりない。説明する必要があるのか。また、キーワードとなるのか。
- ・ 基本方針第 3 章の調査結果だが、以前の会議でもお願いしたが、分析する上で N 値（有効数字）が必要であり、記載をお願いしたい。
- ・ 同じく基本方針第 3 章のアンケート結果など複数回答の質問については、グラフの表示にも複数回答である旨を記載してもらいたい。
- ・ 基本方針第 2 章①高齢化率は、一覧表ではなく、目で認識や確認することが出来るように図面上に円グラフや色別の印で表現したものがよい。また、これからの予測や手立てを考える上で、後期高齢者と前期高齢者に分けての表現があってもいいかもしれない。
- ・ スクールバスについては、基本方針第 2 章②では 31,000 千円の黒字という記載があるが、基本方針第 5 章の課題では、一般客の混乗についても検討することを記載している。有償混乗については交付税との関連からもいろいろなことが考えられるが、事務局はどのように考えているのか。
→例えば十和地区のスクールバスへの一般客混乗は、スクールバス運行の話し合いのとき反対が多かった経緯もある。そういった解決していかなければならない課題もあり、事務局としてもこれから考えていく必要があると考えている。
- ・ 混乗時の料金については、有料・無料どちらにするのか。
→上記同様、これから考えていかなければならない。
- ・ 今回は、青ナンバー・白ナンバーなど形態を考えず、全部の事業を一緒に考えようとしている。一つ一つ考えていかないと、解決策は見えてこないのではないかと。また、専門的な言葉（例えばフィーダー路線）も多く、優しい言葉を使った資料（説明の説明書）がいるのではないだろうか。
→今回は、基本的な方向を考えることとし、細かいところは個々にこれからと考えている。
- ・ 基本計画の中で、利便性の向上策、利用促進策、予算等についてはこれから整理していくのか。
→はい。その予定です。

- ・ 四万十町は学校の適正配置計画による統廃合等を予定しているが、この基本方針はその計画とも絡める必要があるのではないか。
- ・ 基本方針第2章②10ページに、バス会社が切符販売の委託を受け販売していると書いているが、JRとバスの乗り継ぎなどによる、割引販売などはできないか。
→制度上、割引販売ができるかどうか分からない。
- ・ 同じ場所で販売しており、例えば高知から大正大奈路など通して買えば安くなるなら利用する人が増えるのではないかと考えるが。
→割引販売を考えるならば、JRは四国内統一料金で、割引が出来ないため、バス料金を割引くようなかたちでの料金設定になるのではないかと考える。
- ・ 企画切符の販売は可能ではないか。
→JRとの話も必要だが、やってみることも必要かと思う。
- ・ 今回の基本方針や計画は、現場でどう活かされるかが大事ではないだろうか。
- ・ 高南観光は、くろしお鉄道の切符を販売している。月に2万円ぐらいの売上があるが、くろしお鉄道も経営状況は苦しいようだ。観光事業から、くろしお鉄道と高南観光のバスのタイアップは考えて見ようと思っているが、あくまで観光部門での連携を考えている。
- ・ 基本方針第5章2ページ、バスの老朽化により買い替えが必要とあるが、小型化すると経済的にどのくらい安くなるのか。利用者ニーズ調査をしていないとあるがどうしてか。2社の補助制度の違いとはどのように考えるか。
→【北幡観光】バスの小型化により、車両価格が安くなるしそれに伴い燃料代も安くなる。定期的にアンケートなどは行っていない。しかし、乗務員はお客様からいろいろな話を直接聞いている。補助金については、できれば統一してもらいたいと考えている。
→【高南観光】バスは小型化すれば安くなる。しかし、低床バス等になると高くなってくる。乗客のニーズ調査は行っていない。社内の改革を行っており、社外まで考えが及んでいないのが現状だ。観光部門は黒字、またはトントンで、赤字の路線部門を観光部門が補填もしている現状がある。
- ・ バス会社への補助金は、北幡観光は四万十町だけ、高南観光は複数市町村と一緒に運営していることもあり、考え方が統一できていない。高南観光については、現在は、5年前に決めた要綱及び覚書で基本単価を決め補助している。二つのバス会社の補助制度の統一については、今後そういった要望があれば協議していきたいと考えている。
- ・ 基本方針第3章63ページ（通勤者調査）で「今後条件が整っても通勤でバスを利用しない人」が半数を超えている。また、第5章5ページを見ても、住民の意識形成の取組だけでバス使用を考えていくのは難しいのではないだろうかと考える。そういったなかで、これは独り言として聞いてほしいが、通勤を環境ビジネスに関連付けられないか。（カーボンオフセット等）排出権を売れば、通勤手段の時補助できるのではないかと考えた。単なるイメージ形成では危ういと感じる。
→まさに言われるとおりでと思う。基本方針6章で規制について触れているが、もっと前面に出していくか協議した経過がある。
- ・ 規制だけだとマイナスイメージしか浮かばない。ハイブリット・電気バス等コストはかかるがイメージから導入してみてもどうか。
- ・ 廃油車（バス）も考えたが、どのように廃油を収集するのかというところで、行き詰っている。

- ・ 廃油の回収などは、シルバー人材センターなどを使えば集まると思う。雇用の促進にもなるだろう。
- ・ アンケート結果から、病院バスを使うのはお金が要らないだけでなく、運転手が優しいからといったことが読み取れる。病院が、患者（お客さん）を大切にするには運転手教育もしているからである。路線バスが病院バスの役割を担えば、病院バスはやめることが出来る。分析でもそういったところをもっと盛りこんでもらいたい。路線バスの運転手の対応が問題ではないだろうか。
- ・ 運転手が乗客を手助けするなど、今の路線バスでは無理だと思う。
- ・ 乗り降りの楽なバスにしてもらいたい。以前にもこの会議で提案したが、振動病の人がバスを使えば環境にも優しい。今は 80%の人が車で診療所等に行っている。監督署にも路線バス使用の協力要請をしたほうがいいのではないか。
- ・ 市町村合併のときから役場職員の通勤にバスを使ってはどうだろうかという話もあったが、帰りの便が残業等で不定期なため話を進めることにならなかった。
- ・ 病院バスの見直しは、手っ取り早く一番に取り組めることではないだろうか。そんな取り組みを町民に周知していくことが必要ではないか。大きな話やエコの話などをしても、年寄りにはわかってもらえない、理解してもらえないと考える。
- ・ 病院バスは病気の方だけの利用であると考えますが、病院がそのバスに乗るべき人かどうかの判断はつくのか。
→判断はつかないが、病院バスで病院に来られる方は車椅子を利用される方がとても多い。
- ・ 自分自身が路線バスに乗ることもあるが、乗ると怖いと感じる運転のときがある。例えば乗客が座席に着く前の発車することなどがある。乗客への声かけなど乗務員の教育が出来れば、病院バスから路線バスへの乗換えが出来るのではないだろうか。
- ・ 議会でも公共交通について質問が出ており、この会議の進捗が大事となっている。議会でも慌てずじっくりと取り組むべきだとの話だったが、行動計画をいつ頃仕上げる予定か。
→基本方針は本年度に、行動計画は21年度なるだけ早い時期にまとめたいと考えている。
- ・ 急いで作ってもいいものが出来ないで、ヒアリングもしながらじっくりと作ってもらいたい。
- ・ 行動計画の中の短期・中長期のさびわけはどのように考えているのか。
→短期は3年、中長期は10年を考えている。
- ・ 長期はもう少し先を見据えたものもいいかもしれない。
- ・ 交通計画の町民版（概要版）が必要ではないだろうか。
- ・ 詳しい路線バスについての状況やニーズ調査、学校再編についても触れる必要があるのではないのか。
- ・ 基本方針の最後のページにある、「懸賞」だが、懸賞とは当りはずれがあるものなので表現を変えたほうがいいのではないだろうか。
→懸賞については、他の市町村でもあるのが、免許証返納による、路線バス乗車補助券などが該当すると思う。
- ・ 窪川の商工会でもタクシー業者にアンケートがあった。何か交通について考えているのではないかとも思う。聞いてみてはどうか。また、サービスサービスという町も負担増など困る部分があるだろう。
- ・ 次回の会議では、今回の基本計画案の不十分な部分を埋めて提示するのか。

→基本方針は、今回の協議を反映させて完成品として委員に送りたいと考えている。

- ・ 幹事会でも取り組み方針などの協議を行い決めていくのか。

→行動計画については、幹事会で案を作成し提示していきたいと考えている。

- ・ 人間の心理として、ただのほうには人は流れるので、そこを考えて計画を作ってもらいたい。自分達事業者もサービスについては十分に行っているつもりだ。
- ・ バス停まで1キロもある人は、車に乗れなければタクシー利用を考えている。ある地区の集まりで、何人かで集まってタクシーを利用する集まり（システム）を作ろうかという話もあった。白タクで問題になったが、大豊のシステム導入は出来ないだろうか。横の連絡をどうしていくかということではないだろうか。
- ・ 今後の見直しでバスを購入する場合は、高額だという問題はあるが低床バスの購入が基本となっている。また、国の補助制度があるので周知もしていただき活用検討してほしい。

【まとめ】

基本方針（案）については、今回の会議で出された意見をもとに完成品をつくり、後日委員に発送する。

今後は、この基本方針をもとに行動計画を策定していくが、策定にあたっては幹事会を開催する予定なのでご協力をお願いします。その後、行動計画の案ができ次第、第 5 回目の本会議を開催する。

また、行動計画の策定と平行して、可能なものから行動に移していきたいと考えており、その内容によって関係者ごとの話し合いを持っていきたい。

第4回四万十町地域公共交通会議 出席者名簿

■ 委員

組 織 名	氏 名	出欠確認	備 考	
道路運送法9条で定める必要のある委員	四万十町	副町長 高瀬 満伸	○	
	高知運輸支局	首席運輸企画専門官 一宮 軌善	○	代理 近藤専門官
	(有)高南観光自動車	代表取締役 生田 則明	○	
	(有)北幡観光自動車	代表取締役 由類江 秋穂	○	補佐：山本
	(有)窪川ハイヤー	山崎 健一	×	
	新生タクシー	佐竹 憲雄	○	
	丸三ハイヤー（本社）	三浦 ひろみ	×	
	十和ハイヤー（十川）	芝 恒雄	○	
	住民または旅客（窪川）	富岡地区 榎本 利一	○	
	住民または旅客（大正）	下津井地区 下本 治男	○	
	住民または旅客（十和）	大井川地区 谷崎 直子	×	
くぼかわ病院	事務長補佐 芝 司	○		
大西病院	事務部長 藤原 満子	×		
田辺医院	医院長 田辺 博之	×		
高橋内科・呼吸器科・消化器科	高橋 美華	○		
高知大学	准教授 藤塚 吉浩	○		
しまんと町社会福祉協議会	副会長 八木 雅昭	○		
四万十農業協同組合	営農推進課長 国廣 純一	×		
高知はた農業協同組合	支所長代理 藤本 憲一	×		
合 計		12名	補佐1名	

■ その他

- ・ 高知県地域支援企画員（夕部）、高知県地域づくり支援課（下本）
- ・ 四万十町企画課（武内、敷地、富田、細川）
- ・ くろしお地域研究所（吉田・土居） ※委託業者

出席者合計：21名